

第2回鶴見・あいねっと第4期策定検討プロジェクト 議事要旨

日時: 令和元年12月16日(月)15:00~17:00

場所: 鶴見区役所1階 予防接種室

出席者: 杉浦委員長・八森副委員長

大野委員・烏田委員・川合委員・高橋委員・富樫委員・増子委員

事務局:(区役所) 福祉保健センター長・福祉保健課長・事業企画担当係長・福祉保健課職員

(区社協) 事務局長・事務局次長・職員

1 開会

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

2 センター長挨拶

3 第2回鶴見・あいねっと第4期計画策定検討プロジェクトについて(説明:事業企画担当係長)

○資料1「第4期鶴見・あいねっと計画策定検討プロジェクトについて」をもとに今回のプロジェクトでは次期計画の方向性を検討することを説明。

4 第3期鶴見・あいねっとの振り返り

○資料2「第3期鶴見あいねっと 推進の柱ごとの取組と第4期計画に向けた課題」について説明。(説明:事業企画担当係長)

・第3期計画における推進の柱①~③それぞれでの「地域の取組」、「区役所の取組」、「区社協の取組」として主な取組と成果を説明。また振り返りにもとづいた次期計画へ引き継ぐ課題が、次期計画で重要性が高い検討テーマにつながることを説明。

○資料3「調査・統計関係データまとめ」について説明。

【柱1に関する項目】(説明:福祉保健課職員)

〈A 担い手〉

① 町内会加入率の推移(統計分析)

町内会の加入率は減少している。住民の地域活動への関わり方も変化している。

② ボランティア登録数(統計分析)

将来の担い手の種まきにつながっている。

③ 近所との関わりについて(区民アンケート)

年齢が低くなるにつれ、近所との関わり方が薄れていく傾向があるが、若者、子育て世代、働き世代も近所との関わりをより密にしたいと希望している。どの世代もつながりのある地域づくりの必要性を感じている。

④ 地域活動への参加状況(区民アンケート)

年代ごとの地域活動参加状況では、20代～40代まで増加傾向にあるが、50代で減少し、60代～80代にかけてまた増加する傾向がみられた。ライフステージに応じた、地域との関わりを継続できるしくみが重要である。

⑤ 地域活動への参加状況(区民アンケート)

近所づきあいが親密な人ほど、地域活動に参加している傾向がある。多様な選択肢の中から地域活動に参加してもらうためには、地域とのつながりが大切である。

〈B 多世代交流〉

① 地域での必要な支援について(区民アンケート)

「隣近所でのあいさつ・声かけ」、「高齢者世帯の安否確認・見守り」、「様々な世代の方が気軽に過ごせる場所」は、前回計画策定期の区民アンケート結果でも上位3つに入っており、今回も同様の結果となった。多世代交流のニーズが引き続き高いことが読み取れる。

〈C 多様な主体〉

① 必要な情報をどこから得ているか(関係機関アンケート)

ほかの主体(団体・関係機関等)との連携により、必要な情報を得ている。多様な主体との連携は、自身の活動に必要なとなっていることが読み取れる。

② 他の団体・関係機関との関わりについて(関係機関アンケート)

他の団体や関係機関との関わりは、団体ごとにばらつきがあるが、自治会・町内会、地区社協など分野を限らない団体との連携は多い傾向にある。商店街や企業との連携が少ない結果であったが、連携が増えれば取組の幅も増加する可能性もあることが考えられる。

【柱2に関する項目】(説明:区社協職員)

〈D 必要なときに必要な支援につながる〉

① 認知症高齢者生活自立度Ⅱa以上の人数(統計分析)

認知症による支援が必要な人が増加している。

② 鶴見・あいねっとの取組(関係機関アンケート)

柱2「必要な人に支援が届くしくみづくり」について、充実度は他の柱と比べると低く、さらなる取組みの必要性としては高い割合となっている。

〈E 相互理解〉

① 外国人住民数の推移(統計分析)

外国人住民数は増加しており、相互理解、多文化共生の考え方はますます重要となっている。

② 認知症カフェの数(統計分析)

認知症とその家族、介護者の居場所は着実に増えている。

③ 認知症キャラバンメイト及び認知症サポーターの数(統計分析)

共に増加傾向にあり、認知症の方を地域で見守る体制が充実してきている。

〈F 権利擁護〉

① 生活困窮者自立支援制度等について(関係機関アンケート)

制度等については認知されてきている事業もあるが、関係団体の中でも「わからない」という回答が 75 団体中 20 団体(27%)あり、さらなる周知が必要と考えられる。

② 障害の有無に関わらず住民が主体的に参加できるまちづくりについて(関係機関アンケート)

「交流する身近な機会が必要である」という回答がもっとも多かった。交流の機会を増やすためには、地域の協力が不可欠である。また、交流により障がい児者自身が地域に関心を持てるようになることが重要である。また、生まれた関心を大切に育てていけるよう、権利擁護を進めていく必要がある。

【柱 3 に関する項目】(説明:福祉保健課職員)

〈G 健康づくりへの区民意識の醸成〉

① 特定健診受診率(統計分析)

地域によって異なるため、地域の実情に合わせた取り組みができると良い。

② 近所づきあいの程度と主観的健康観(区民アンケート)

近所づきあいの程度がより親密な人は、より自身を健康と感じている人が多い傾向がみられる。

③ 主観的健康観と地域活動参加状況(区民アンケート)

主観的健康観がより高い人のほうが、地域活動に参加している割合が高い傾向がみられる。

〈H 身近な場・機会〉

① ふらっとる一む(親子の居場所)の分布(統計分析)

区内に 52 か所あり、エリアによって充実度に違いはあるが、中心部から離れた場所でも、身近な場所で親子が集える場が整ってきている。

② つるみシニアマップに掲載されている区高齢者の居場所(統計分析)

高齢者の居場所、取り組みが増えてきている。

③ 障害者日中作業所の分析(統計分析)

区内に 42 か所あるが、分布に偏りがあり、通いにくい地域もあると考えられる。

④ 地域にあったらいい交流の場(区民アンケート)

地域サロンと答えた方が最も多かった。身近に気軽に集まれる場が求められていることがわかる。

◎調査・統計関係データの内容に関する質問・意見

(委員)

・本筋からはそれるが、日々の取り組みとして、区老連の事業で区役所と共催をしているのはシルバーフェスタのみである。市老連ではかなり多くの取り組みを横浜市と共催している。ぜひ今後検討してもらいたい。

→今後、検討させていただきたい。

・区民アンケートの対象は記載通り 2000 人なのか。

→記載の通りである。資料 3 は必要なデータを抜粋した説明用資料である。元のデータは資料 4「区民アンケート調査 調査結果報告書」、資料5「関係機関アンケートまとめ」の報告書となる。資料 4 は暫定版であり、統計分析の冊子は今回配布できなかった。1 月の第 2 回鶴見・あいねっと推進委員会で共有させていただきたい。

5 第4期鶴見・あいねっとの方向性について(説明:事業企画担当係長)

○資料 6「第4期鶴見・あいねっとの方向性(案)」をもとに、前回のプロジェクトでの意見も含めた方向性案を説明。

- ・基本理念は、前回と変えていない。今後も続いていくものと考えられる。
- ・柱は3つとしており、「推進の土台」を新たに取り入れた。「人材」、「場・機会」、「相互理解」は、1つの柱だけに関係するというのではなく、すべての取り組みに共通するものであるため、共通概念として「土台」という表し方をしている。同時進行で、柱ごとの取り組みも進めていく。
- ・合わせて、資料7「第3期計画から第4期計画への変更点」をもとに、変更内容について説明。

6 意見交換 ～第4期鶴見・あいねっとの方向性について～

(委員)

ラジオ体操で地域のつながりを作ることができたらと思っている。2、3日見かけないと、大丈夫かどうか近所の人同士で声かけができれば良い。しかし、場所がないと難しい。柱に沿った活動というよりは、今の活動を柱に合わせていくと良いのではないか。

(委員)

お互いに気にかけることは大事。でも場所が必要。今は足りないけれど、今後こうしたらどうかということも検証できる。

(委員)

土台についての考え方は、とても大事なことだと思う。わかりやすくまとまっている。しかし、自分達がどう取り扱っていくかということは、考えていかななくてはならない。地域でこの方向性を見た時に、理解を得られるだろうか。難易度があるように感じる。説明を受けても一度では理解できない。地区別に説明をする時にどう持っていくかということが求められるのではないか。

(委員)

説明方法については、工夫が必要。方向性の表し方はわかりやすい。ただし、説明の仕方について次回までに事務局で検討していただきたい。

(委員)

日本語教室には働いている方の参加が多い。しかし、子どもだと日本語が難しい場合が多い。外国人の子どもへの支援は行っているのだろうか。これから外国人はもっと増えてくる。どのような取り組みをしていくのか。

(委員)

多文化共生の取り組みをもっと全面的にした方が良い。特定健診の受診率は、外国につながる方が多い地区と他の地区とでは割合が異なっている傾向はあるのか。

(事業企画担当係長)

第2回推進委員会の資料で、連合別の外国人居住率を出すことになるため、特定健診受診率の割合を比較していくことはできる。

外国につながる方への具体的な支援については、柱2の取組例に入れてはいるが、より意識を高められるような表現にするかどうかは検討が必要。

(委員)

パンフレットを作っても読まない方は多いだろう。説明会を開いても日中働いている方は来られないと思われる。

(委員)

子ども達は将来の担い手となっていくので、鶴見区の場合は特に外国人の子どもも大切にしていくことを考えた方がよい。介護保険の申請でも、孫が日本語を話しながら祖父母の申請手続きをしていることも増えてきている。

(委員)

鶴見区の特徴を活かし、必要なこととして方向性の柱、土台に入れても良いかもしれない。柱 1、2 や土台などの状態像のところに入れるとわかりやすいかもしれない。外国につながる子どもは、これからの担い手としても重要であると考えられる。

(委員)

土台と柱がすべて手をつながっているイメージ。全部必要なことが入っている。今、必要なのは場所と人。担い手も高齢化している。

先ほどの外国につながる方への支援についてのところで、外国人の認知症の方の情報はなかなか入ってきてはいない。

(委員)

保健活動推進員のウォーキング大会は子どもから高齢者までの参加がある。健康講座は区内で 5 か所開催した。地域でも関心が高い。また、わっくん体操が始まって 10 周年であるが、生麦第二地区では 9 年間続けて地域で取り組んでいる。続けていくことが大事だと感じる。

催しの際に健康チェックを行っている。毎年同じ時期に行うことで、結果を比較することもできるので今後も続けていきたい。

(委員)

そのような具体的な取り組みはどのように整理するのか。

(事業企画担当係長)

具体的な取り組みは本編で整理していくことになる。

(委員)

子育て中の方であきらかに支援が必要な方が、自身の困り感がなく、支援者側としてはどう支援につなげていくか課題と感じている。支援の手法やどういう人が支援を必要としているのかという学びも必要。自分の世代のことだけではなく、世代を越えての学び、理解がないと、地域で支援をしていくことは難しいと感じる。

また、健康づくりとして、心の健康についても必要なのではないかな。

乳幼児期の子育て世代の外国につながる方について、それぞれの国の文化と日本の文化は異なるため、子育て中の外国につながる方の学びの場も必要。その場として、保育園も入れてはどうか。保育園は区内に多くある。近くにある保育園を中心に、子育て世代だけではなく、多世代の学びの場として機能すると良いのではないかな。

(委員)

企業、学校という表記の中に、保育園を入れて意識づけをすることができたらという意見。

本人が困っていなくても周りがしっかり困りごとを把握していくことは、権利擁護である。潜在的なニーズについて、柱 2 の行動目標 3 の取り組み例に、権利擁護として学びや支援者を育成するということも入れられると良い。また、自己決定の尊重が強調される中、本人の言ったことをそのまま本当のニーズだと捉え違えてしまうこともある。本当のニーズなのかどうかという判断を、支援者も意識する必要がある。

(委員)

3期でわからなかったことが、わかりやすくなっている。ただし、なぜこの方向性になったのかという根拠の説明は必要。地域で説明をした時に、3期計画をただ直しただけという捉え方にならないようにしなければならないだろう。

(委員)

先ほどの心の健康については今後、社会的にも重要になってくる。目標の健康づくりに盛り込むことで意識づけはできるだろう。

(委員)

行動目標の健康づくりの中に、認知症に対する理解も入れることはできないか。もっと気軽に認知症について理解してもらえるようなものがあったら良い。

(委員)

認知症は今後増えていく。認知症にフレンドリーな社会になると良い。どこか取組例に入れても良いのでは。

(委員)

もっと具体的に認知症について入れていただきたい。

(委員)

多世代交流ではなく、多世代理解という表現が良いと思う。理解しあうという点が大事。

(委員)

子どもから認知症と発達障害について質問を受けたことがある。意識はあるということである。

(委員)

多世代理解という表現にするのか検討していただきたい。また、方向性についてどう伝えるのか検討が必要。

7 第4期鶴見・あいねっと 地区別計画のフォーマット(案)について(説明:区社協事務局次長)

変更内容と趣旨を説明。

◎変更内容に対する意見

(委員)

区計画との関係性を示す図があった方がわかりやすい。なくなってしまうと地区によっては、区計画と地区別計画が分離される感覚を持つだろう。

8 その他

・次回の日程確認

① 1/31に第2回推進委員会を開催(今回の意見を反映させた方向性案を図る)

② 6月頃に第3回策定検討プロジェクトを開催予定(素案を検討する)

・アンケート記入依頼(任意)

9 閉会

委員長より挨拶

次回の予定 第2回鶴見・あいねっと推進委員会

日時:令和2年1月31日(金)15時~17時

場所:鶴見区社会福祉協議会 多目的室